令和５年度病害虫発生予察情報・注意報第１号
（ハスモンヨトウの多発生に注意）

令和５年９月 14 日
新潟県病害虫防除所

害 虫 名　　ハスモンヨトウ
１ 対象作物　　野菜類、果樹類、花き類
２ 発生地域　　県内全域
３ 発生程度　　平年比多い

４ 注意報の根拠
（１） 各地の性フェロモントラップの誘殺数は、８月第３半旬から急増し、９月第１半旬以降はほとんどの調査地点で平年に比べて多くなった。特に９月第２半旬の誘殺数は五泉市一本杉で 1,831 頭、新潟市西蒲区松野尾で 755 頭となり、平年の２～３倍になっている（図１）。
（２） 現在、大豆、かき、なす、さといも、アブラナ科作物などで、若～中齢幼虫の食害による被害が増加している（図２）。
（３） 気象庁発表の向こう１か月予報では、気温が平年比高いと予報されており、加害に好適な条件が続くと予想される。

５　防除上の注意事項
（１）耕種的防除、物理的防除
ア　本種は広食性で雑草地にも生息しているので、ほ場周辺の雑草管理を徹底する。
イ　葉裏をよく観察し、卵塊または若齢幼虫が密集しているのを見つけたら摘除して、ほ場外で適切に処分する。
ウ　施設栽培では、開口部に目合い４㎜以下の防虫ネットを張り、成虫の侵入を防ぐ。
（２）化学的防除
ア　老齢幼虫になると分散し急激に食害量が増大するうえ、薬剤が効きにくくなるので、体長１cm 以下の若～中齢幼虫のうちに薬剤防除する。
イ　若齢幼虫は葉裏などに密集していることが多いので、薬液が葉裏や株元に十分届くよう丁寧に薬剤散布する。
ウ　薬剤散布の際は、最新の農薬登録状況を確認し、農薬使用基準を遵守する。なお、収穫期が近い作物にあっては、使用時期（収穫前日数）に注意する。

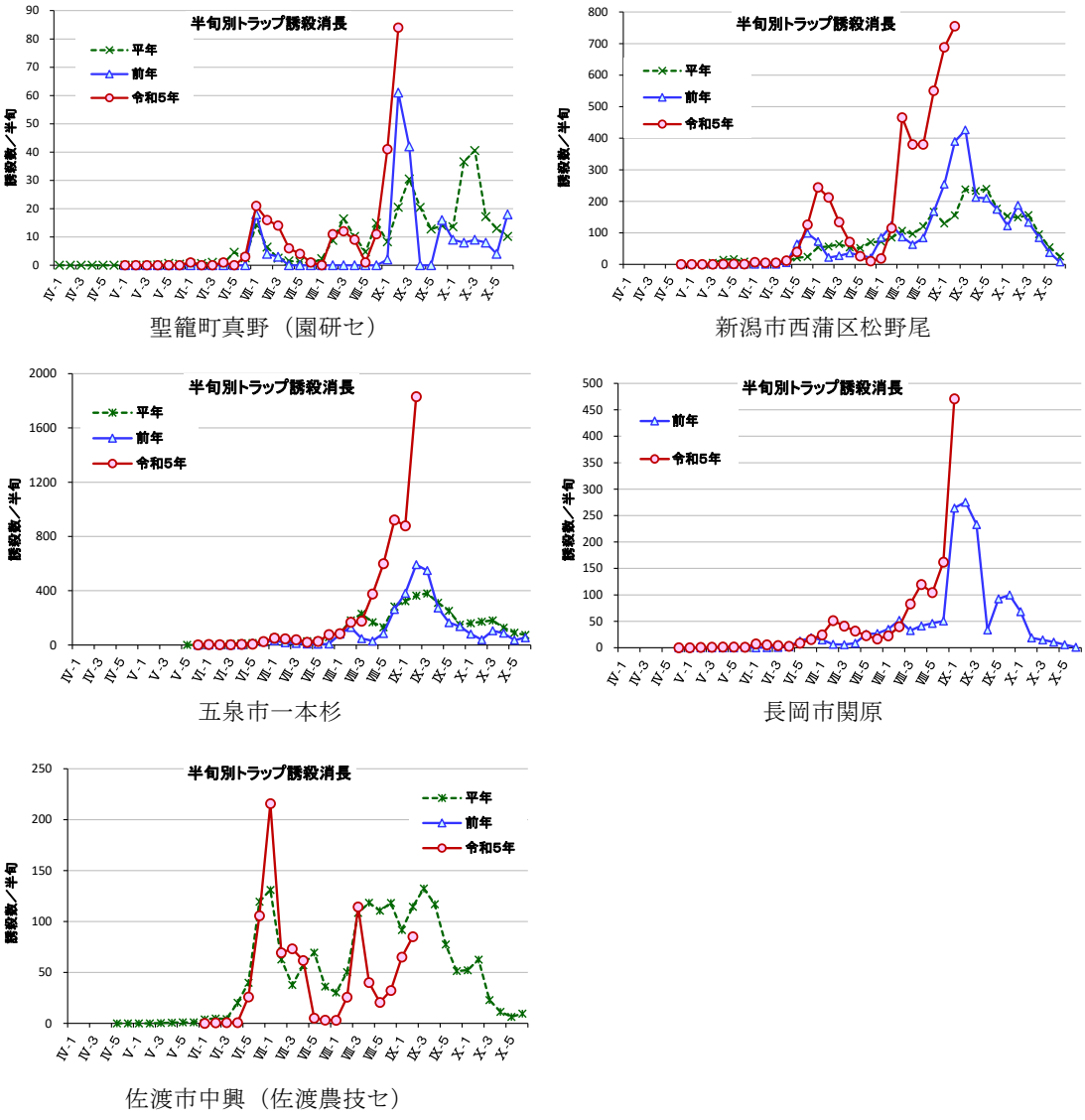

図１　各地の性フェロモントラップにおけるハスモンヨトウの誘殺数

図２　ハスモンヨトウの中齢幼虫